

# 横田英史の 書籍紹介コーナー



## 生命知能と人工知能

～AI時代の脳の使い方・育て方～

高橋宏知

講談社 1,980円(税込)

エンジニア視点から知能の本質や脳の本質に迫った書。脳と人工知能を対比しながら動作原理やメカニズムを解説し、脳の使い方と育て方について持論を展開する。各章の最後に、「まとめ」のほか「脳の使い方・育て方のヒント」を掲載するのも本書の特徴である。少々クセが強い内容だが面白く読み通せる。

生命知能とは、人間や生物の脳に宿る知能を指す。人工知能の影響が強まるなか、生命知能の特長を活かし知識を支える「意識」を鍛えることが重要になっていると説く。脳の話を中心に、話題は社会、教育、宗教、神などへと広がり、筆者の独特な世界観が全開である。

筆者は生命知能と人工知能の大きな違いとして、「意識」の有無を挙げる。意識とは何か、意識とは何のためにあるのか、意識があると何ができるようになるのかなど、意識システムについて考察を加える。

## 共感が未来をつくる

～ソーシャルイノベーションの実践知～

野中郁次郎・編・著

千倉書房 2,970円(税込)

社会問題の革新的な解決法「ソーシャルイノベーション」の国内事例を紹介するとともに、進め方や展開プロセスを解説した書。住民と行政、企業が交流と相互理解を進めることによって共感を醸

成し、地域の問題に対峙することが肝要と説く。ソーシャルイノベーションには、日本企業や社会が本来の輝きを取り戻すためのヒントがあると訴える。

地域の特色を引き出した周防大島の「瀬戸内ジャムガーデン」や長野県の「千曲川ワイン」のほか、NTTドコモやカルビーといった大企業が参画した事例も取り上げる。

成功するソーシャルイノベーションは4段階を経る。まず共感を導き意識改革と行動につなげる。次に課題抽出から解決策の策定。第3に地域コミュニティと企業の連携による解決策の具体化。最後は住民が見出した解決策を自らが実践することである。

## イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学

牧兼充

東洋経済新報社 2,860円(税込)

イノベーションとベンチャー企業、アントレプレナーを生み出すにはどのような環境が必要か、逆にどのような環境が悪影響を及ぼすかなどを、定量的な分析や研究に基づいて論じた書。「政府の補助金は有効か」「スターサイエンティストの存在によってスピリオーバ効果を期待できるか」など、興味深い論点を提供する。論理構成が明確で、議論の進め方が極めてクリアで役立ち感がハンパではない。

筆者は定量論文の読み方を紹介したあとで、イノベーションや起業に関する

数々のテーマについて、それぞれ3本の定量論文をもとに議論を展開する。例えば、「イノベーションは担うのは大企業か小企業か」「スターサイエンティストはなぜ重要か」「なぜ起業活動は特定の地域に集積するのか」「大学発ベンチャーはイノベーションを促進するのか」といったテーマを次々に挙げる。

## 電通現役戦略プランナーのヒットをつくる「調べ方」の教科書

～あなたの商品がもっと売れるマーケティングリサーチ術～

阿佐見綾香

PHP研究所 3,245円(税込)

製品企画を行うときに、どのように情報を収集し、どのように分析し、どのように企画に落とし込めば良いのかを詳細に解説した書。実用性がきわめて高い。

500ページを超える大著だが、図版を大きく使ったり、余白を適切に使うことで読みやすさに配慮しており、スイスイ読み進むことができる。アイデア出しのための40種類のテンプレートを読者に公開しているが、これも嬉しい。

筆者が重視するのはデータの入手の仕方である。「データを分析することばかりが目立っているが、データを手に入れる方が大事。丁寧にデータを入手すれば、簡単な集計でも客観的な意思決定ができる」と述べる。情報収集・分析のための自作ツールを読者向けに公開しているが、政府統計サイトe-Statからデータを抽出するツールは秀抜で使い勝手に優れる。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。

川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロービル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、

同副編集長、BizIT(現XTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。

2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、

2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。

2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、

2019年6月当協会理事、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

\*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

